# 令和7年度　第2回　東大谷高等学校　学校協議会　実施報告書

校名　東大谷高等学校
校長　　吉永　雅也

| | | |
|---|---|---|
| 日　時 | | 令和8年3月7日（土）14:00～15:30 |
| 場　所 | | 東大谷高等学校　3階　多目的室１ |
| 出席者 | 委　員 | 東　京子氏（成美会役員）、丸岡俊介氏（関西大学教職支援センター特任教授）<br>中村俊一氏（立志館ゼミナール代表取締役）<br>大橋敏宏氏（和泉市立北池田中学校校長）、宮坂政宏氏（週刊教育プロ編集員）<br>松本 麗華（令和7年度PTA会長） |
| | 事務局 | 吉永雅也（校長）、志藤真裕（教頭）、植田智史（教務部長）、田岡克也（進路指導部長）<br>出水謙一郎（入試対策部長）、甘木智美（生活指導部長） |
| 傍聴者 | | 植村一貴（本校卒業生） |
| 欠席者 | | なし |
| 議題等 | | 1.校長挨拶　　2.委員紹介及び事務局・出席者紹介　　3.議長選出<br>4.協議・報告<br>(1)学校全般について（校長）<br>(2)大阪大谷大学高大連携プログラム状況について（教務部長）<br>(3)大学等入試結果について（進路指導部長）<br>(4)高校入試結果について（入試対策部長）<br>(5)アンケート結果報告について（教頭）　①学校評価アンケート　②授業アンケート<br>5.次年度の事業計画について（校長）　6.ご意見　7.その他 |
| 協議内容<br>意見・提言 | | ＜経営面：320名程度の入学者確保＞<br>ターゲット層の絞り込みについて：「真面目で落ち着いた生徒」をターゲットにするという広報戦略は、ミスマッチを防ぐ意味でも非常に有効である。<br>広報の質について：オープンキャンパスでの若手教員による説明は、熱意が伝わりやすく参加者（保護者・中学生）から非常に好評であった。誇大広告をせず、ありのままの学校の姿を伝える「ファクトチェック」の姿勢を継続すべきである。<br>地域連携の強化：近隣の中学校（三原台中学校など）とのジョイントコンサートといった行事を通じて、足元の地域（南区周辺）での認知度とつながりをさらに深めるべきだ。<br>＜指導面：学習・進路・宗教的情操教育の改善＞<br>生徒の思考力低下への懸念：AIの普及や入試科目の軽量化により、生徒の「抽象的な思考力」が弱まっている。大学合格をゴールにするのではなく、生涯続く「学習習慣」や「教養」を身につけさせる指導が必要だ。<br>宗教的情操教育と人間形成：「感話」などの行事を通じて、他者との縁や感謝の心に気づかせる教育は、本校の大きな特色として今後も大切にしてほしい。<br>＜組織運営：業務の効率化と持続可能性＞<br>スクールバス廃止の影響について:バス廃止により近鉄沿線からの志願者が減ることは避けられない。（令和8年度までは継続）<br>教職員の負担軽減について:入学者が増える一方で、教職員が一人二役をこなしている現状がある。少子化を見据え、少ない人数でも回るような業務の効率化や情報共有の仕組み作りを急ぐべきだ。 |
| 協議資料 | | (資料1)高大連携プログラム　　(資料2)大学入試結果　　(資料3)アンケート結果<br>(資料4)次年度事業計画 |